

# 芭蕉 最後の旅

元禄7年9月7日（1694年）膳所衆、大坂衆の要請で、伊賀上野から大坂へ・・・

（一般的に 弟子の酒堂(しゅどう) と 之道(しどう)の争いの調停のためと云われているが??)

芭蕉の最後の旅となった。

## 1. 『 菊の香に くらがり登る 節句かな 』

句碑は、暗峠の大阪側の登り口にあるそうです。

## 2. 『 菊に出て 奈良と難波は 宵月夜 』

9月9日大阪に着いた際に、重陽の節句にちなんで詠んだ句です。

難波に着いたころには日も暮れ、宵月夜が美しかったんだろうな。

句碑 （生国魂神社境内にあります）



平成12年9月9日 松本清一・仁孝 建立  
後藤西香 書

<注>小林 孔 先生の考察では、生玉神社ではなく、  
「長町6丁目」（現在の堺筋 日本橋4付近）に逗留したようだ。

## 3. 『 升かふて 分別替る 月見哉 』

13日に、住吉大社の宝の市神事へ参拝し、参道で売られた升を買った。

折から体調が悪かった芭蕉はその夜、招かれていた月見の句会には出席せず宿へ帰り、

その翌日の句席で、発句「升かふて……」と詠み、

前日の非礼を詫びたという。

句碑 （住吉公園内にあります）

この碑は 明治3年、芭蕉170回忌記念に建立。  
高さ170cmの自然石。  
上部の穴は月を表現したものとされている。



※ 句碑の文字は 「升買って 分別かわる 月見かな」

#### 4. 『 秋ふかき 隣はなにを する人ぞ 』

9月28日 体調を崩した芭蕉は句会に参加できず、この発句だけを芝柏亭に届けた。

#### 5. 『 旅に病で 夢は枯野を かけ廻る 』

10月5日 南久太郎町御堂前の花屋仁右衛門宅離れ座敷に移った。そして、10月8日夜、呑舟に墨を摺らせてこれを作句した。

句碑 (南御堂境内にあります)



<南御堂の正面の碑>

この句碑は、芭蕉150回忌記念に  
天保の俳人達によって建てられたものです。  
(後方に芭蕉の木が緑の葉を広げています)

10月12日、芭蕉 永眠。

#### ◆ 芭蕉翁終焉の地

「此附近芭蕉翁終焉ノ地ト傳フ」

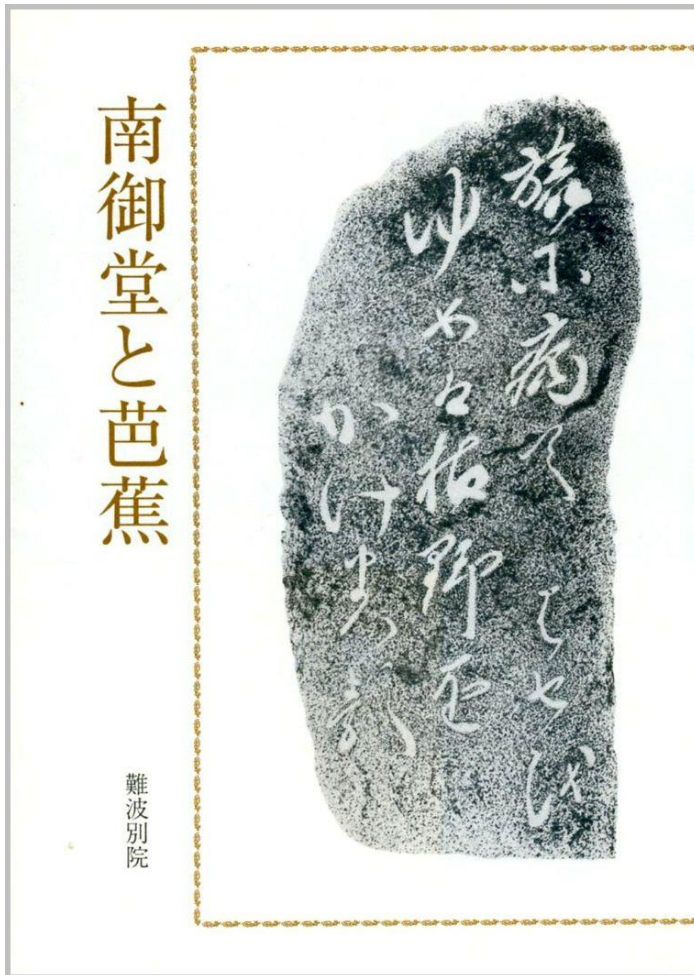
(南御堂の向かい側、御堂筋のグリーンベルト中にあります)

側面に「昭和九年三月 建之 大阪府」

<注> 花屋仁右衛門方・・・花屋仁左衛門か???

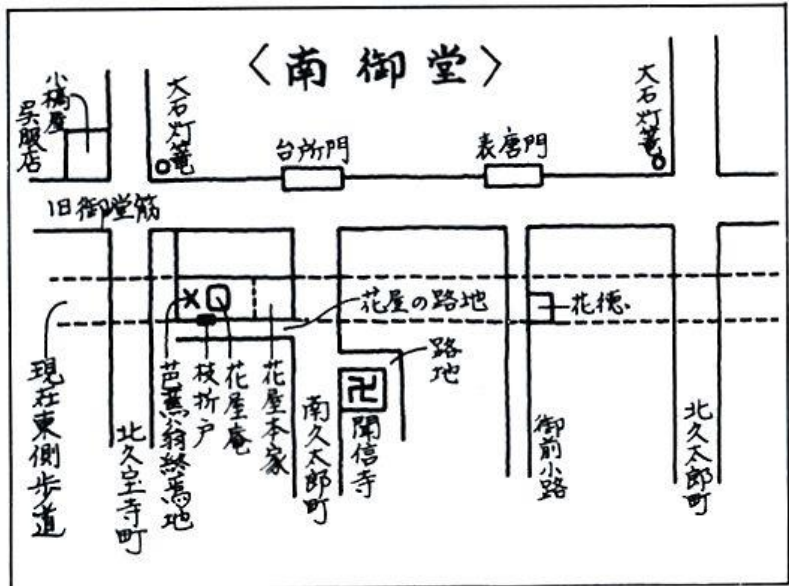


<余録>・南御堂さんの冊子より



句碑の拓本  
右下に【ばせを】・・・芭蕉

<花屋の位置>



芭蕉終焉の地、花屋の位置(米谷修氏「大阪春秋」第4号より)  
(終焉の地の碑は、少し北側に建っている)